

## 8 小児下部尿路機能障害における漢方薬の役割

滋賀医科大学 泌尿器科

上仁 数義、森 友莉、中川 翔太、小林 憲市  
河内 明宏

### 【目的】

夜尿症診療ガイドライン2016で推奨されている小児下部尿路機能障害(夜尿症、昼間尿失禁)の治療は、数か月の生活指導の後、抗利尿ホルモン、アラーム療法がファーストラインの治療で、無効の場合は、抗コリン剤併用や三環系抗うつ薬を投与する。ガイドラインにおける漢方薬の役割は、明らかではなく、併用療法が望ましいと記載されている。今回我々は、小児下部尿路機能障害が治癒した患者を後方視的に検討し、漢方薬の役割について検討した。

### 【方法】

2015年11月から2019年8月までに、小児下部尿路機能障害が治癒した122例(男児90人、女児32人)平均 $10 \pm 2.5$ 歳(6-18):単純夜尿症43人、非単一症候性夜尿症37人、昼間尿失禁42人を対象とし、漢方薬使用例と非使用例および漢方薬単独例と漢方薬併用例について治癒年齢および治癒までの期間について後方視的に検討した。

### 【結果】

漢方薬を使用したのは、16例(13%)で、小建中湯(11)、黄耆建中湯(3)、中建中湯(2)、当帰四逆加呉茱萸生姜湯(1)、葛根湯(1)、抑肝散(1)と建中湯類が84%を占めた。漢方薬単独例は、7例、併用例は9例であった。併用治療は、アラーム(9例、100%)、抗利尿ホルモン(5例、56%)、三環系抗うつ薬(4例、44%)、抗コリン剤(3例、33%)、下剤(1例、11%)であった。漢方薬使用例と非使用例では、治癒年齢および治癒までの期間に差を認めなかった(治癒年齢: $11.3 \pm 2.8$ 歳 vs  $10.4 \pm 2.4$ 歳、治癒までの期間: $21 \pm 16$ ヵ月 vs  $22 \pm 17$ ヵ月)。漢方薬使用例のうち、漢方薬単独例と併用例では、治癒年齢に差を認めなかったが( $10.3 \pm 2.8$ 歳 vs  $12 \pm 2.8$ 歳)、治癒までの期間は、単独例の方が有意に短かった( $6.7 \pm 4$ ヵ月 vs  $32.3 \pm 12$ ヵ月,  $p < 0.001$ )。

### 【結論】

小児下部尿路機能障害の治療において、13%に漢方薬を用いており、84%は建中湯類であった。漢方薬単独例の治癒までの期間は、併用例に比べ有意に短かった。